

北海道教育委員会「S-TEAM 教育推進事業」
令和4年度（2022年度）授業研究セミナー

道央・外国語 実施報告



令和4年11月9日（水）、北海道札幌国際情報高等学校を会場に「外国語科における探究的な学び（主体的・対話的で深い学び）とICT（一人一台端末）を活用した効果的な学習指導の在り方」をテーマとして、3年グローバルビジネス科のコミュニケーション英語Ⅲにおいて「メディアリテラシー」を題材とした授業研究セミナーを開催しました。当日は、空知・石狩・後志管内及び全道からオンラインでの参加を含め33名が参加し、研究授業の参観や協議の柱を踏まえた研究協議を行いました。

本セミナーの実施内容等を紹介いたしますので、授業改善の参考として御活用ください。

実施状況

【学習指導案検討会】

本セミナーの研究授業の実施に向け、道立高校教諭3名、道教委指導主事3名から成る「授業研究チーム」を編成し、オンラインによる学習指導案の検討会を3回実施しました。検討会では、授業者が作成した学習指導案をもとに、「探究的な学びを重視した授業展開の構想」、「本時のねらい（目標）の明確化」、「ICTの効果的な活用」等を中心に、授業者の「生徒観・教材観・指導観」に基づいて、授業研究チームが実際に授業を受ける生徒の姿を想定しながら、学習指導案の検討を行いました。検討会を通して、授業者は、生徒に身に付けさせたい資質・能力を整理し、授業の目標をより明確にしたり、生徒の思考を促す課題や具体的な学習活動を設定したりするなど、学習指導案の改善・充実を図りました。

【研究授業】北海道札幌国際情報高等学校 小林 康洋 教諭

本時の授業では、第3学年グローバルビジネス科の生徒を対象に、「インターネットにおける情報の特性」について聞いたり読んだりして理解したことをもとに、情報の「送信側」、「受信側」それぞれの立場から注意すべきことを考察し、論理性に注意して話して伝えることができることをねらいとして、教科等横断的な視点から、「メディアリテラシー」に関連する話題を取り上げました。生徒が個人で思考を整理したり、自分の考えを発表したりする言語活動において、一人一台端末を目標達成のために効果的に活用していました。小林教諭が、生徒の発話を促す問いを設定し、生徒が自信をもって発言できるようにリキャストしたり、思考を深めさせたりするためにフィードバックしたりしている点が印象的でした。



[学習指導案\(hokkaido.lg.jp\)](http://hokkaido.lg.jp)

【研究協議】「外国語科における探究的な学びと ICT を活用した効果的な学習指導について」

研究授業の振り返りとして、授業者からの説明及び質疑応答を行った後、会場の参加者及びオンラインの参加者がそれぞれグループに分かれ、「研究授業で特に良かったと思うことと自分の授業でどのように取り入れたいか」の視点から自校での実践の様子や、課題と感していることなどについて意見交換するとともに、研究授業を踏まえ、自校で取り入れたい活動について話し合いました。授業者である小林教諭をはじめ、授業研究チームの先生方も協議に加わり、活発な協議となりました。まとめとして、運営者より、「令和4年度教育課程編成・実施の手引」に基づいて、指導と評価の一体化の考え方を整理した上で、外国語科における、観点別学習状況の適切な見取り方について説明しました。参加者からは、「本セミナーを通して、これまでの授業とこれからの指導計画を見直す機会になった」などの感想が聞かれました。



セミナー参加者の声

【参加者の声】

- 授業実践が目的によく合致していて、参考になった。
- 生徒同士、教員と生徒のやり取りの機会が十分に確保されていた。
- 生徒の活動に対してのフィードバックやリキャストの重要性を感じた。
- 生徒のペアワークにインフォメーションギャップを取り入れてみようと思った。
- 今回の授業参観で学んだことをアレンジして自校の生徒に指導していきたい。
- 授業の見通しをもたせることについて、自校でも生徒に合わせた形で示せると思った。
- 探究的な要素を自校の授業に取り入れるためのよい参考になった。
- タブレットなどを活用した授業改善の方法が具体的にわかった。

【アンケートの結果（一部）】

- 1 今回の授業研究セミナーは、あなたの今後の授業改善に役立ちますか。
 - ・大いに役立つ 35%・役立つ 65%
- 2 今回のセミナーで紹介した教材や指導方法、研究授業、研究協議の内容等は、あなたの授業において活用できますか。
 - ・大いに活用できる 30%・活用できる 70%